試験問題　令和７(2025)年度

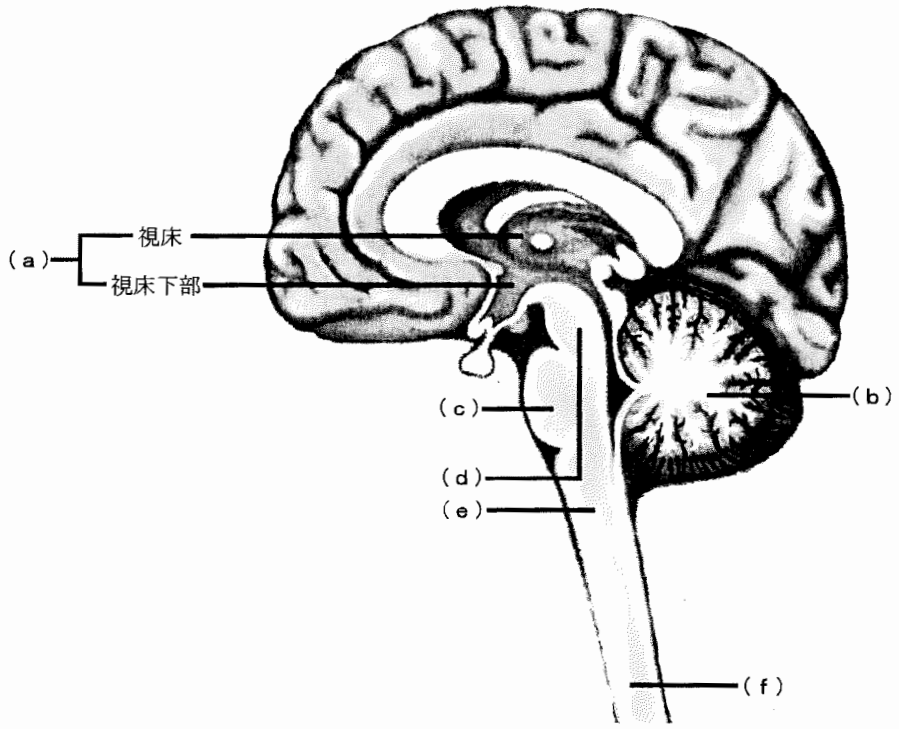
受験番号	

養　護　教　諭　（６ページのうちの１）

（注）答えは解答用紙の定められた解答欄に記入すること。

1 脳と神経系について、次の１、２の問いに答えよ。

1　次の図はヒトの脳の正中断面図である。図中の（　a　）から（　f　）の名称を答えよ。　〈各１点〉



2　次の文章の（　①　）から（　⑦　）に当てはまる最も適切な語句を、下のアからシのうちから選び、記号で答えよ。　〈各１点〉

ヒトの神経系には脳と（ｆ）からなる（　①　）系と、(①) 系と体の各部との間をつないでいる（　②　）系がある。ヒトの脳は、頭蓋腔の中にあり髄膜や（　③　）で保護されている。大脳の外側は（　④　）と呼ばれ細胞体が集まる。内側は（　⑤　）で神経繊維が集まる。（ａ）の視床下部は自律神経の中枢であり、体温、（　⑥　）、血圧などを調節する。（ｄ）は視覚や聴覚の反射に関する中枢であり、瞳孔の調節や姿勢の維持にかかわる。（ｂ）は（　⑦　）を保つ中枢が存在する。（ｅ）は呼吸運動や心臓の拍動、消化運動などの調節中枢が存在する。

ア　平衡機能	イ　理性	ウ　末梢神経	エ　大脳皮質	オ　血液	カ　髄液
キ　血糖濃度	ク　大脳髄質	ケ　中枢神経	コ　脂肪細胞	サ　言語活動	シ　交感神経

2　学校心臓検診について、次の1、2の問いに答えよ。

1　「学校心臓検診の実際　スクリーニングから管理まで　令和2年度改訂」（日本学校保健会）に示されている、児童生徒の心臓病に関する内容の一部である。次の文章の（　①　）から（　④　）に当てはまる語句を答えよ。〈各2点〉

生れつきの心臓病である先天性心疾患は、出生1,000人に対して8～10人発生する。もっとも多いのは（　①　）である。他、（　②　）、（　③　）、（　④　）等も多く、これらの4疾患で、先天性心疾患全体の80%以上を占めている。

2　「心疾患児　学校生活管理指導のしおり（学校・学校医用）　令和2年度改訂」（日本学校保健会）に示されている、児童生徒の「学校生活管理指導表」について、次の（1）、（2）に答えよ。

（1）　「学校生活管理指導表」の各指導区分の基本的考え方について（　①　）から（　⑦　）に当てはまる語句を答えよ。〈各1点〉

「A」：入院または（　①　）が必要なもので、登校はできない
「B」：登校はできるが（　②　）は不可
「C」：同年齢の平均的児童生徒にとっての（　③　）にのみ参加可
「D」：同年齢の平均的児童生徒にとっての（　④　）にまで参加可
「E」：同年齢の平均的児童生徒にとっての（　⑤　）にも参加可
「管理不要」：（　⑥　）は不要であり、かつ（　⑦　）も不要

（2）　心疾患があり「学校生活管理指導表」の指導区分「D」の中学1年男子生徒に対し、体育の授業で行うプール活動に関する保健指導を行うことになった。養護教諭として対象生徒に指導する内容を具体的に答えよ。〈2点〉

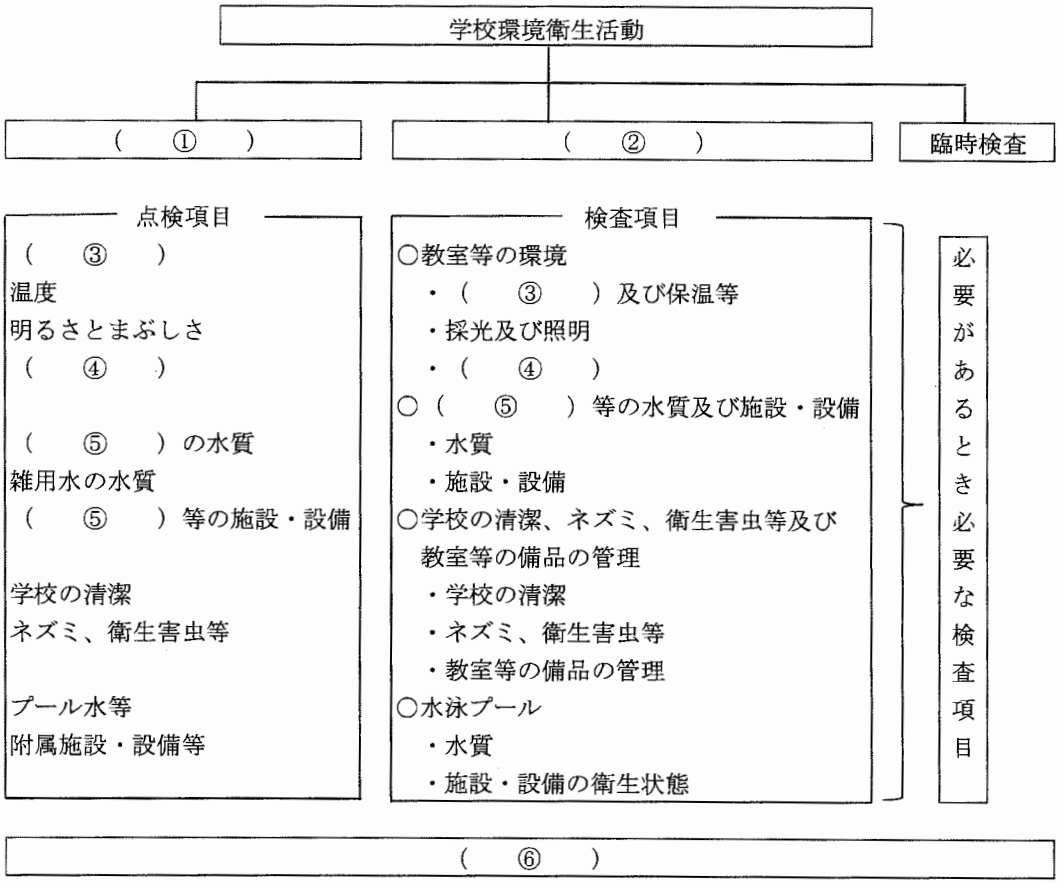
3　厚生労働省は、「医師法第17条、歯科医師法第17条及び保健師助産師看護師法第31条の解釈について」（平成17年7月26日　厚生労働省医政局長通知）において、原則として医行為ではないと考えられる行為を例示している。（ただし、例示された行為であっても医行為とされる場合もある。）

この通知に例示されている、原則として医行為ではないと考えられる内容について、（　①　）から（　⑥　）に当てはまる語句を答えよ。〈各1点〉

1　水銀体温計・電子体温計により（　①　）で体温を計測すること、及び耳式電子体温計により（　②　）で体温を測定すること
2　（　③　）血圧測定器により血圧を測定すること
3　新生児以外の者であって入院治療の必要がないものに対して、（　④　）を測定するため、パルスオキシメータを装着すること
4　軽微な切り傷、擦り傷、やけど等について、専門的な判断や技術を必要としない処置をすること（汚物で汚れたガーゼの交換を含む。）
5　患者の状態が以下の3条件を満たしていることを医師、歯科医師又は看護職員が確認し、これらの免許を有しない者による医薬品の使用の介助ができることを本人又は家族に伝えている場合に、事前の本人又は家族の具体的な依頼に基づき、医師の処方を受け、あらかじめ薬袋等により患者ごとに区分し授与された医薬品について、医師又は歯科医師の処方及び薬剤師の服薬指導の上、看護職員の保健指導・助言を遵守した医薬品の使用を介助すること。具体的には、皮膚への軟膏の塗布（褥瘡の処置を除く。）、皮膚への湿布の貼付、点眼薬の点眼、一包化された内用薬の内服（舌下錠の使用も含む）、肛門からの坐薬挿入又は鼻腔粘膜への薬剤噴霧を介助すること。
　①　患者が入院・入所して治療する必要がなく容態が（　⑤　）していること
　②　副作用の危険性や投薬量の調整等のため、医師又は看護職員による連続的な容態の経過観察が必要である場合ではないこと
　③　内用薬については（　⑥　）の可能性、坐薬については肛門からの出血の可能性など、当該医薬品の使用の方法そのものについて専門的な配慮が必要な場合ではないこと

4 「学校環境衛生管理マニュアル『学校環境衛生基準』の理論と実践　平成30年度改訂版」（文部科学省）に示されている内容について、次の1、2、3の問いに答えよ。

1　図中の（　①　）から（　⑥　）に当てはまる語句を答えよ。　〈各1点〉



2　教室等のまぶしさの検査項目及び基準値の設定について、次の文章の（　①　）から（　⑥　）に当てはまる語句や数字を答えよ。　〈各1点〉

まぶしさの基準は、（　①　）等から見て、（　②　）の外側（　③　）° 以内の範囲に輝きの強い（　④　）（昼光の場合は窓）がないこと。見え方を妨害するような光沢が、(②) 面及び（　⑤　）面にないこと。見え方を妨害するような電灯や明るい窓等が、テレビ及び（　⑥　）等の画面に映じていないこと。

3　教室等におけるまぶしさの原因を3つ答えよ。　〈各1点〉

5　「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン　令和元年度改訂」（日本学校保健会）に示されている、食物アレルギー及びアナフィラキシーについて、（　①　）から（　⑬　）に当てはまる語句を答えよ。　〈各1点〉

【食物アレルギー】
（定義）
一般的には特定の食物を摂取することによって、皮膚・呼吸器・消化器あるいは（　①　）に生じるアレルギー反応のことをいいます。
（症状）
皮膚症状が最も多く、次いで呼吸器症状、消化器症状、中には（　②　）症状と多岐にわたります。
（治療）
管理は「正しい（　③　）に基づく必要最小限の除去」です。（　④　）試験により診断を正確に行い、必要最小限の除去を実施することが大切です。

【アナフィラキシー】
（定義）
アレルギー反応により、じんましんなどの皮膚症状、腹痛や嘔吐などの消化器症状、ゼーゼー、呼吸困難などの呼吸器症状が、複数同時にかつ急激に出現した状態をアナフィラキシーと言います。その中でも、（　⑤　）が低下して（　⑥　）の低下や脱力を来すような場合を、特にアナフィラキシー（②）と呼び、直ちに対応しないと（　⑦　）にかかわる重篤な状態であることを意味します。
また、アナフィラキシーには、アレルギー反応によらず（　⑧　）や身体的な要因（低温/高温）によって起こる場合があることも知られています。
（治療）
具体的な治療は重症度によって異なりますが、(⑥) の障害などが見られる重症の場合には、まず適切な場所に足を（　⑨　）より高く上げた体位で寝かせ、嘔吐に備え、顔を（　⑩　）にします。そして、(⑥) 状態や呼吸、（　⑪　）の状態、皮膚色の状態を確認しながら必要に応じ（　⑫　）を行い、救急車で医療機関への搬送を急ぎます。
（　⑬　）自己注射薬である「エピペン®」を携行している場合には、緊急性が高いアレルギー症状があると判断したタイミングで (②) に陥る前に注射することが効果的です。

6　学校保健安全法施行規則で述べられている、出席停止の期間について、（　①　）から（　⑫　）に当てはまる語句を答えよ。　〈各1点〉

【学校保健安全法施行規則】
第19条　令第6条第2項の出席停止の期間の基準は、前条の感染症の種類に従い、次のとおりとする。
1　第1種の感染症にかかつた者については、（　①　）するまで。
2　第2種の感染症（（　②　）及び髄膜炎菌性髄膜炎を除く。）にかかつた者については、次の期間。ただし、病状により学校医その他の医師において（　③　）がないと認めたときは、この限りではない。
イ　インフルエンザ（特定鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。）にあつては、発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後（　④　）（幼児にあつては（　⑤　））を経過するまで。
ロ　百日咳にあつては、特有の（　⑥　）が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治癒が終了するまで。
ハ　麻しんにあつては、解熱した後（⑤）を経過するまで。
ニ　流行性耳下腺炎にあつては、耳下腺、（　⑦　）又は舌下腺の（　⑧　）が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで。
ホ　風しんにあつては、発しんが（　⑨　）するまで。
ヘ　水痘にあつては、すべての発しんが（　⑩　）するまで。
ト　咽頭結膜熱にあつては、主要症状が（　⑪　）した後（④）を経過するまで。
チ　新型コロナウイルス感染症にあつては、発症した後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後（　⑫　）を経過するまで。

7 次の1、2の問いに答えよ。

1 「学校の管理下の災害　令和5年度版」（独立行政法人　日本スポーツ振興センター）に示された、学校の管理下における児童生徒等の災害の中で令和4年度に医療費を給付した負傷・疾病（継続給付分を除く）に関する記述について、（ ① ）から（ ⑥ ）に当てはまる最も適切な語句を、下のアからチのうちから選び、記号で答えよ。〈各1点〉

（1） 負傷・疾病における場合別発生割合については、小学校では「（ ① ）」、中学校と高等学校等では「（ ② ）」での発生割合が最も多い。
（2） 負傷・疾病における部位別発生割合については、幼稚園では「（ ③ ）」、小学校では「（ ④ ）」が最も多い。
（3） 負傷・疾病における運動指導内容（実施種目）別発生割合については、球技中のけがが中学校では全体の7割以上、高等学校等では全体の8割以上を占めている。中学校、高等学校等ともに最も発生頻度の多い球技は「（ ⑤ ）」である。
（4） 疾病における男女の割合については、小学校、中学校及び高等学校等のすべての校種で、（ ⑥ ）の方が多くの割合を占めている。

ア 課外指導	イ 下肢部	ウ 野球（含軟式）	エ 各教科等	オ 頭部
カ テニス	キ 学校行事	ク 体幹部	ケ 特別活動（除学校行事）	
コ ラグビー	サ 顔部	シ バスケットボール	ス 休憩時間	セ 女
ソ 上肢部	タ 男	チ バレーボール		

2 次の（ ① ）から（ ⑧ ）について当てはまる語句を答えよ。〈各1点〉

（1） 国立がん研究センターの最新がん統計（2021年）によると日本での死亡者数が最も多く、特に男性の死亡者数が多いがんは（ ① ）がんである。
（2） がん治療の3つの柱は、手術療法、放射線療法、（ ② ）療法である。これらは標準的な治療法として推奨されている。
（3） 思春期の女子が月経時及び月経周辺期に、繰り返し腹痛、頭痛、嘔気、嘔吐などの症状が強く、授業等を受けることも難しい場合は（ ③ ）症の可能性があるため産婦人科の受診を勧める。これは将来子宮内膜症等に移行するリスクを有する。
（4） ノロウイルスによる食中毒の発生報告件数が最も多い季節は（ ④ ）である。
（5） 学校等においてけいれん発作時の口腔用液（ブコラム®）を投与する際は、対象児童生徒の（ ⑤ ）と（ ⑥ ）の間にゆっくりと全量を注入する。
（6） 「（ ⑦ ）教育システム」とは、障害のある児童生徒が、その年齢及び能力に応じ、可能な限り障害のない児童生徒と共に、その特性を踏まえた十分な教育を受けることのできる仕組みのことである。
（7） 障害のある児童生徒が、他の児童生徒と同様、公平に教育の機会に参加することを目的として、学校の設置者及び学校が社会的障壁を除去するために行う取組のことを「（ ⑧ ）配慮」という。

8　「改訂6版　救急蘇生法の指針2020市民用」（日本救急医療財団心肺蘇生法委員会）及び「JRC蘇生ガイドライン2020」（一般社団法人日本蘇生協議会）に示されている「気道異物による窒息」に関連することについて、次の1、2、3の問いに答えよ。ただし、この問いの傷病者は意識があるものとする。

1　傷病者の窒息の状態が進行し、声を出せず強い咳をすることもできない場合や咳ができなくなってきた場合、どのような方法をとるか。（　①　）に手法名を、（　②　）、（　③　）に具体的な方法を答えよ。　〈各2点〉

手法名	具体的な方法（アプローチする部位を明確に示すこと）
（　①　）	（　②　）
ハイムリック法	（　③　）

2　ハイムリック法を行った後に必ず行わなければならないことを答えよ。　〈2点〉

3　ガイドラインにはハイムリック法を行うことがふさわしくない対象者が示されている。そのうちの2つを答えよ。　〈各1点〉

解答用紙　令和７(2025)年度

養　護　教　諭（２ページのうちの１）

受験番号	

1	1	a	間脳		b	小脳		c	橋		
		d	中脳		e	延髄		f	脊髄		
	2	①	ケ		②	ウ		③	カ	④	エ
		⑤	ク		⑥	キ		⑦	ア		
2	1	①	心室中隔欠損（症）				②	心房中隔欠損（症）			
		③	動脈管開存（症）				④	ファロー四徴（症）			
	2	(1)	①	在宅医療			②	運動			
			③	軽い運動			④	中等度の運動			
			⑤	強い運動			⑥	運動制限			
			⑦	経過観察							
		(2)	・水慣れ、浮く、伏し浮き、け伸び、ゆっくりな泳ぎなどは可能だが、競泳、遠泳（長く泳ぐ）、タイムレース、スタート・ターンなどは不可。 ・少しでも体調が悪い時や体調に異変や不安を感じた時は近くの先生や養護教諭に相談をする、プールに入らず見学にするなど、決して無理はしないこと。　など								
3	①	腋下					②	外耳道			
	③	自動					④	動脈血酸素飽和度			
	⑤	安定					⑥	誤嚥			
4	1	①	日常点検		②	定期検査		③	換気		
		④	騒音		⑤	飲料水		⑥	事後措置		
	2	①	児童生徒		②	黒板		③	15		
		④	光源		⑤	机上		⑥	コンピュータ		
	3	・黒板及びホワイトボードに近い窓 ・窓の外の反射光 ・光源及びその光沢				・窓から見える青空 ・直射日光 ・テレビやコンピュータ等の画面に映る窓や光源　など					

②③④は順不同

養　護　教　諭（２ページのうちの２）

受験番号	

5	①	全身性	②	ショック	③	診断	④	食物経口負荷（食物負荷）
	⑤	血圧	⑥	意識	⑦	生命	⑧	運動
	⑨	頭	⑩	横向き（横）	⑪	心拍（脈拍）	⑫	一次救命措置（救命措置）
	⑬	アドレナリン（エピネフリン）						
6	①	治癒	②	結核	③	感染のおそれ	④	２日
	⑤	３日	⑥	咳	⑦	顎下腺	⑧	腫脹
	⑨	消失	⑩	痂皮化	⑪	消退	⑫	１日
7	1	①	ス	②	ア	③	サ	
		④	ソ	⑤	シ	⑥	タ	
	2	①	肺	②	化学	③	月経困難	④	冬
		⑤	歯ぐき	⑥	頬	⑦	インクルーシブ	⑧	合理的
8	1	①	背部叩打法					
		②	傷病者の後方から背部を叩打する。叩打する時は手のひらの付け根（手拳基部）で左右の肩甲骨の中間あたりを数回以上強く叩くようにする。　など					
		③	傷病者の後ろにまわりウエスト付近に手を回す。片手で握りこぶしを作り、その親指側を傷病者のへそより少し上にあてる。その握りこぶしをもう一方の手で握り、素早く手前上方に向かって圧迫するように突き上げる。　など					
	2	内臓を痛める可能性があるため、異物除去の有無にかかわらず救急隊員にその旨を伝えるか速やかに医師の診察を受けさせる。　など						
	3	乳児、妊婦、高度肥満者						